（お知らせ）

２０２６年１１月１９日
防　　衛　　省

日印防衛相共同プレスステートメント

令和８年１１月１９日、小泉進次郎日本国防衛大臣とラージナート・シン印国防大臣は、東京において日印防衛相会談を実施した。

両大臣は、本年８月及び１０月に引き続き、短期間で３回目の防衛相会談を実施するなど、両大臣間の緊密な意思疎通の下、日印防衛協力が着実に具体化していることを歓迎した。

両大臣は、今後自衛隊が初めてインドの射場を活用し、地対艦誘導弾を含む射撃訓練等を実施することに向けた意図表明文書の署名を歓迎した。また、早期の実現に向けて、両国の防衛当局間で調整を加速することで一致した

両大臣は、本年８月に署名した「海洋安全保障協力に関する覚書」の下、海洋安全保障協力の具体化が着実に進展していることを歓迎した。特に、機雷対処能力の強化や海軍種の造船・設計における共同開発の可能性などについて、局長級をヘッドとするワーキング・グループにおいても実務者級の議論をフォローアップしていくことを確認した。さらに、両大臣は、海上自衛隊とインド海軍間での情報共有を促進する環境の整備に向け、協力を一層深化させていくことで一致した。

両大臣は、本年１１月に日本において実施された海軍種間の日米印豪共同訓練「マラバール２０２６」及び日印共同訓練「ＪＡＩＭＥＸ２６」をはじめ、各軍種間の共同訓練を通じた協力が深化していることを歓迎した。また、特殊作戦部隊間の交流も進展させていくことで一致した。

防衛装備・技術協力について、２０２７年２月までのインド側による必要性承認（ＡｏＮ）完了を含む艦艇搭載用複合通信空中線（ＵＮＩＣＯＲＮ）プロジェクトに関連する手続きが、早期に完了することへの期待を表明した。また、最先端防衛技術の分野において、ＤＲＤＯ（国防研究開発機構）とＡＴＬＡ（防衛装備庁）との間の防衛研究開発協力を、具体化していくことを確認した。

両大臣は、空軍種間で航空領域把握（ＡＤＡ）分野での協力をしていくことで一致し、局長級ワーキング・グループにおいても実務者級の議論をフォローアップしていくことを確認した。

両大臣は、インド太平洋地域の安全保障環境が一層複雑化し、不確実性を増す中、地域の平和と安定のため、日印二国間の防衛協力に加え、三カ国・多国間の防衛協力を更に推進し、実践的な協力を進めていくことについて一致した。

両大臣は、これらの具体的な協力を着実に実施し、日印防衛協力を更なる高みへと引き上げることで、インド太平洋地域の平和、安定及び繁栄に貢献していくとの決意を共有した。